

荻窪の文化財・太宰治の碧雲荘を残そう

へきうんそう

碧雲荘は、中学生が使用する全ての国語の教科書に作品の載る、作家太宰治の住んだ高級下宿で、貴重な文化遺産です。太宰は、荻窪で過ごした5年あまりの内、昭和11年11月15日から、昭和12年6月20日まで、7ヶ月あまり碧雲荘に住んでいました。その間に後の代表作となる『人間失格』のもととなった『HUMAN LOST』がここで執筆され、この時期は作家としても、また太宰の人生においても、大きな転機となる時期でした。そのときの思い出は、後に短編『富嶽百景』に記されています。太宰治の文学的な遺構は、ほとんどが現在では失われております。わずかに残る建物の一つが荻窪の碧雲荘です。作家として作風の、また人生の重要な転換期に、実際に住んだ碧雲荘が現存していることは奇跡とも思えます。

碧雲荘は、昭和初期に大工の棟梁であった田中豊作氏が、自宅兼高級下宿として建築しました。ステンドグラスが使われるなど、建物の随所に当時の郊外文化の名残をとどめ、和洋折衷の建築様式を持つ高級下宿としての佇まいは、建築的にも文化財としての価値を持っています。

これを保存し、活用することで、荻窪らしいまちづくりができると考えます。

私たちは、このような立場から、杉並区とも協力し、碧雲荘の保存・活用に向けて活動してゆきたいと思えます。ご賛同いただける皆さんの、ご理解とご協力をお願い致します。

2015年4月24日



荻窪税務署に隣接する天沼3丁目の碧雲荘（現況）

荻窪の歴史文化を育てる会

会長 岩下武彦（中央大学文学部教授）

事務局 〒166-0004 杉並区阿佐谷南 3-28-3 大嶋アトリエ内

連絡先：TEL. 03-3391-1527 / FAX. 03-3391-9455 / MAIL ogireki@gmail.com

杉並区長 田中 良 様

碧雲荘の保存、活用を要望いたします

杉並区には、価値のある文化財が数多く存在しています。太田黒公園・角川庭園・荻外荘のように、区民の憩いの場、交流の場として保存、活用されている例もございますが、その他にも重要な文化財が多々あります。

2015年1月25日付東京新聞1面トップに、天沼3丁目の碧雲荘について、「太宰のアパート残したい」という見出しの記事が載りました。碧雲荘は、太宰治が作家としての修業時代とも言える時期を過ごした建物で、人生及び作風の転換期を偲ばせる、貴重な文化遺産です。また、昭和初期の和洋折衷の建築様式を持つ高級下宿として、極めて貴重な建築遺産です。

日本文学史上、また杉並の文化史上、かけがえのない価値を有する文化財で、これが失われることは、杉並区民にとってばかりでなく、国内外の太宰研究者、あるいは多くの太宰ファンにとっても、取り返しのつかない損失となるに違いありません。

杉並区におかれましては、日頃から文化財について十分な理解を示しておられますが、この碧雲荘につきましても、杉並区民の宝として是非とも保存、活用をしていただきますよう切にお願い申し上げます。

荻窪の歴史文化を育てる会

会長 岩下武彦（中央大学文学部教授）

事務局 〒166-0004 杉並区阿佐谷南 3-28-3 大嶋アトリエ内

連絡先：TEL. 03-3391-1527 / FAX. 03-3391-9455 / MAIL ogireki@gmail.com

氏 名	住 所

※署名はボールペンでお願いします。ここに記載された個人情報は、この目的以外には使用いたしません。